



三沢さとし県議会レポート

発行／自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043(227)7411

館山市

マリンレジャーで活性化

6月県議会一般質問



6月県議会で県の施策を質問する三沢智県議

南房総の振興に力を注いでいる三沢智県議（館山市選出、3期）は6月定例県議会で登壇し、マリンレジャーによる館山市の活性化や船形漁港地区の賑わい創出、安房地域の周遊観光振興などについて県の施策を聞きました。また、近年の気温上昇で米やカーネーション、梨の晩生品種「新高」の生育に障害が現れている問題を取り上げ、対策を県の担当者に質問しました。三沢県議の質疑と県執行部の答弁を紹介します。

三沢議員 「マリンレジャーによる観光・地域振興を実現する議員連盟」のメンバーたちと一緒に、クルーザーにより、保田漁協、館山港など内房エリアと対岸の神奈川県横浜のヨコハマベイサイドマリナを視察してきました。

当日は、館山港の背後市である館山市や港湾関係者とも意見交換を行い、現状や課題などについて、ヒアリングを行った。視察を通して、内房エリアは都市部からの多くのニーズがあることも分かり、館山港築港から多目的桟橋までのエリアでは、改めて地元の海の魅力を感じることができた。

また、館山市では、海に囲まれたまちづくりに向け、

官民でプレジャーボートの係留や船での往来がしやすい環境づくりが進められて

三沢議員 「民間の有識者による『人口戦略会議』によって、本県でも22の市町が今後、人口減少が深刻化する『消滅可能性自治体』として分類された。私の地元安房地域でも、南房総市や鋸南町がリストアップされた。

「消滅可能性自治体」だけではなく、他の市町村においても、今後 人口減少・少子高齢化は、ますます進んでいく。こうした人口構

深刻な人口減少・少子高齢化

行政サービス維持市町村の連携重要

造の変化は、行政サービスの持続可能性に影響を及ぼすことが懸念され、もはやすべての行政サービスを単独の市町村で維持していくことは困難であると言える。

住民に最も身近な基礎自治体である市町村が、今後

いるところであり、活用の仕方によっては、観光も目玉になり得ると実感する

現在、海水浴場として利用される北条海岸の砂浜の保全をはじめ、クルーズ船や観光遊覧船が着岸する桟橋の一部拡張などを行っております。

総務部長 市町村が複雑・多様な行政課題に直面する中で、効率的で効果的な行政運営をするためには、広域的に連携していくことが大変重要なことであると考えています。

広域連携の手法としては、周辺市町村間での定住自立圏形成による相互連携や、一部事務組合や事務の委託など多様な手法があります。県としては、各地域において最適と判断した広域的な取組に対して、できる限りの支援をしてまいります。

三沢議員 人口減少などの社会情勢の変化の中、どの市町村も大変厳しい行政運営を行っている。

今後市町村が行政サービスを提供していくためには、広域連携を避けて通る

水産高校、魅力づくりへ

三沢議員 漁業の担い手育成に係る水産系高校の課題は何か。また、今後どのように取り組んでいくのか。

教育長 本県の水産系高校では、近年、募集定員に満たない状況が続いており、生徒募集が課題となっています。また、卒業後の海洋関係への進学・就職者は約3割いるものの、漁業就業は1割未満であり、水産業界のニーズを踏まえた教育内容の充実も課題です。

県教育委員会では、昨年度の「新規漁業就業確保・育成対策検討会議」の提言を踏まえ、今年度、有識者や学校関係者等から水産系高校の教育内容の見直しなどについて、意見を伺うこととしています。具体的には、スマート水産技術の活用など実践的授業のあり方や入学生確保の取組、遠隔地からの生徒の受入体制等について検討いただき、地域との連携による魅力ある高校づくりを進めてまいります。

●館山市と県政に関するご要望をお寄せください。

三沢さとし 県議事務所

〒294-0037 館山市長須賀470-1

TEL 0470-22-3051 FAX 0470-22-3052

ことはできない。将来に渡って持続可能な地域となるように、県には積極的な支援をいただくよう要望する。

船形漁港核に賑わい創出

直売所やレストラン出店検討

三沢議員 館山市内の漁港では、水揚げ量の減少や魚価の低迷などにより、かつての活力が失われつつある。そのため、市では水産物流通の拠点である船形漁港周辺の活性化を検討することにし、老朽化した荷さばき施設の建て替えを進め、新たに衛生管理機能を強化した施設が本年2月に完成した。

近年は、海や漁港などを活用して、地域の賑わいを創出する取組が目立っている。館山市においても、船形館山線、通称船形バイパスの整備とあわせて、船形漁港周辺で漁業を振興するための検討が始まり、本年3月には国が重点的な支援を行う地区に船形地区が選定された。

そこで質問するが、船形地区における海業の取組に対し、県はどのように支援していくのか。

農林水産部長 館山市では、新鮮な海の幸や豊富な観光資源などを活用した地

域活性化を目指すため、昨年12月に地元関係者や有識者等からなる海業推進協議会が設置され、これまでに直売所やレストランの整備など、船形漁港を核とした

取組が検討されているところで。

県では、海業を推進するための指針となる千葉県海業推進基本構想を年度内に策定するとともに、各地区

が事業計画を策定する際に必要となる調査や、専門家の派遣に要する費用などを支援することとしています。また、館山市の協議会に参画して、先行事例の紹介

や事業実施に向けた助言など積極的な支援を行うことにより、漁港を核とした、賑わい創出や水産物の消費拡大による漁村地域の活性化を図ってまいります。

導を行うほか、梨では県育成の「秋満月」への植替えを支援しています。

また、県が昨年度開発した生育予測アプリ「でるた」を活用し、米の品質が低下しないよう適切な水稻の管理を促すほか、カーネーションの発病を抑制する技術や効果的な遮光方法の確立などの試験研究を進め、農作物の総合的な高温対策技術の開発に取り組んでいます。

また令和4年度から、市町村と連携し、学生の多い地域においては若者を対象とし、女性団員の少ない地域においては女性を主な対象として、地域の実情に応じた消防団への加入促進の取組を実施しています。

今後、SNSを活用した若者向けの広報を行うなど、消防団の加入促進に取り組んでまいります。



米作も高温の影響を受けた

米や梨などにダメージ

三沢議員 県として高温による農作物への影響に対応するため、どのように取り組んでいくのか。

知事 近年の気温の上昇や猛暑により、米の品質低下、カーネーションの病気の発生や収穫時期の遅れ、梨では晩生の「新高」の果実障害等が発生しており、被害を回避・軽減するための対応が喫緊の課題となっています。

このため県では、高温に備えるための技術指導マニュアルを作成し、水稻の水の管理方法や肥料の与え方、カーネーションの遮光やハウ

スの換気方法など、品質と収量を低下させない技術指

肥料価格、高騰続く

三沢議員 肥料価格の高騰に対し、県はどのように対応していくのか。

農林水産部長 肥料価格は、国の統計データによると、令和5年4月をピークに若干下落したものの依然高水準にあり、農業者にとって厳しい経営環境が続いていると認識しています。

このため県では、化学肥料の使用量を抑えるため、生産者に対し、土に含まれ

る栄養分を考慮した肥料の量の適正化や、作物の根の周辺にのみ肥料を使用する技術を指導するほか、家畜ふん堆肥や緑肥など、化学肥料の代替となる有機物の活用を促しているところ。

今後は、これらの取組を一層推進するとともに、コストの低減に向け、スマート農業など、先端的な技術の活用促進も図りながら、

学生消防団活動 就職活動でアピール

三沢議員 消防団への加入を促進するため、県はどのような取組を行っているのか。

防災危機管理部長 県では、特定の活動のみに参加する機能別消防団員制度や、学生が就職活動でアピールできる学生消防団活動認証制度の導入など、消防団への加入を促す取組を市町村に働きかけているところ。

また令和4年度から、市町村と連携し、学生の多い地域においては若者を対象とし、女性団員の少ない地域においては女性を主な対象として、地域の実情に応じた消防団への加入促進の取組を実施しています。

今後、SNSを活用した若者向けの広報を行うなど、消防団の加入促進に取り組んでまいります。

安房地域の周遊観光振興

三沢議員 安房地域を含めた周遊観光の広域的な取組として、具体的にどのようなものがあるか。

商工労働部長 県では、観光ウェブサイトに掲載しております広域的な周遊モデルコースの中で、安房地域についても、海の魅力やグルメを満喫できるプラン

「阿波忌部氏」縁の神社巡る旅プラン

などを多数紹介しているほか、「とみうら枇杷倶楽部」や本年2月にオープンした「グリーンファーム館山」な

ど、人気の道の駅を県内の道の駅マップに掲載し、周遊を促しております。また、房総を開拓したと

されており、阿波忌部氏ゆかりの神社を、館山市から勝浦市に至る周遊プランの開発やモニターツアーの開催を支援したところ。今後はモバイルスタンプラリーも実施し、観光コンテンツとしての定着を図ることとしております。

引き続き、安房地域をはじめ、県内市町村と連携いたしまして、広域的な観光振興に取り組んでまいります。

要望

三沢議員 10月には里見八犬伝を題材とした映画が公開予定と聞いており、里見の町である館山から地域活性化の波が起きていくのではないかと大いに期待しているところであり、こうしたトピックも有効に活用しながら、県も地元市町や関係団体とタッグを組んで、誘客の促進に積極的に取り組んでいただくことを要望する。



議場の自席で再質問を行う三沢県議